

2



* 0010378000 *

0010378-000

特251-310

なぜ事変は終らないか？

高山雅郎・著

三共書院

昭和14

ABJ

この著作物は、著作権者不明のため、著作
第67条の規定に基づき、平成12年3月
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するも

特251

310

終

ら

な

い

か

な

ぜ

事

変

は

—反英國民鬪争の目標—

三共書院

3
3

10
SEN

特251
310

高山雅郎著

なぜ事變は終らないか？

— 反英國民闘争の目標 —



東京三共書院



青天白日旗の

色褪せたとき――

われらは、そこに

憎むべき

ユニオン・ジャックを見た！

なぜ事變は終らないか？

――反英國民鬭争の目標――

高山雅郎

(一) なぜ事變は終らないか

蘆溝橋以來滿二ケ年を経過した――。

北京も、上海も、南京もとつくに陥落した。徐州も、漢口も、廣東も、海南島までも日本の手に歸した。支那四百餘州でも、ヒレヤロースに相當するところには、必ず日章旗がひるがへつてゐる。

それなのに、なぜ事變は終らないか。

(一) なぜ事變は終らないか

これが問題なのである。

大陸の天地を見よ！

東亞の天を覆ふ妖雲はまだ去らず、大陸の野に擴がる戦火は、いつ熄むべしとも思はれない。我々の愛する同胞は、——我々の父は、兄は、弟は、夫は、そして親しい友は——地の涯、海の彼方に、大君と祖國の萬歳を叫びながら倒れて行つた。かれらは、いつ我々の、團欒の食卓に歸つて來るのであらうか。

春が過ぎて行つた。夏はやがて人々を海や山に誘ふ。だが、かれらは明けても暮れても大地に伏し、荒波にもまれて、敵の砲彈を聞いてゐなければならぬのだ。勝つて來るぞと、勇ましく出かけて行つたかれらは、果していつ我々の前にその笑顏を見せて呉れるのであらうか。

一體、なぜ事變は終らないのか。

これが問題でなければならぬ。

日本は戦争に勝つてゐるのか、負けてゐるのか——新しい地圖をひろげてみるがいゝ。日本軍の占領地區の廣さ、世界の歴史のどの頁に、このやうな素晴らしい戦果があつたか。いかなる英雄がこのやうな大業を成し遂げたか。我々の獲得しつゝある勝利は、實に徹底的であり、然も且つ決定的でさへもある。支那軍は奥地に押し込められ、そこには鐵道らしきものもなければ、資源らしいものも見當らぬ。毎日のやうに、我軍の飛行機が、彼等の頭の上を飛び歩いて、縦横無盡に暴れ廻る。飛行機らしい飛行機は今では殆んど無くなつてしまつた。裝備も問題にならない。兵隊の數は多いが、狩り集めの烏合の衆ばかりである。これで戦争に勝てるとは、いかにお目出度い支那人でも考へる筈がない。然るに、抗日政權はどうか。依然として抗戦を叫び、最後の勝利を宣傳してゐる。その非を悟らず、その愚を改めようとはしないのである。

これでは、戦争が終る譯はない。

その原因はどこにあるのであらうか。

日本は事變の最初「暴支膺懲」を叫んで立ち上つた。日本は、終始一貫して不擴大方針を堅持

し、支那良民を敵としない立場をとつて來てゐる。日本は支那を滅してしまはう、と云ふのではない。日本は、實に日本自身が生きるために、止むにやまれず立ち上つたのである。日本のこの意志は「暴支膺懲」の言葉がもつともよくこれを説明してゐる。然し、日本は戦つてゐる中に、「暴支」が單に暴支ではないことを悟るに至つた。支那を暴支たらしむる者が何んであるかを知つた。その一つが蘇聯の對支援助である。蘇聯の援蔣政策は、とりも直さず支那の赤化政策でなければならぬ。支那大陸に於て、蘇聯の赤化が成功することは、ひとり支那の不幸であるばかりではなくて、東亞全體の危険であることは、こゝに説くまでもなからう。手段を擇ばない抗日政權は、支那共産黨と手を握つてその戦線統一を獲得し、或ひは蘇支軍事同盟を結んで、對日戦争の火の手を煽つたのである。支那が必要以上に強くなつたのも當然である。

日本が、日獨伊防共協定を結成して、支那事變に「反共」の標幟をかゝげたのは、この事變によつて赤化の魔手を東亞から驅逐すべき使命を自覺したからに外ならない。支那事變はもはや單なる「暴支膺懲」ではなくなつた。暴支膺懲は同時に、赤色帝國主義から東亞を救ふための、積極的聖戰の意義を見出したのである。斯くの如くにして、我々は南京を陥落し、徐州を、漢口を

攻略したのである。

然るに、我々の眼前には更に別の巨大な影が現はれて來た。この影は、我々が南方に進むに従つて、いよゝゝその正體を現はすに至つたのである。この影は、英國をその盟主として支那領土に自國權益を有する先進デモクラシー國家群であつた。この状態は、極東に於ける日本と同じく歐羅巴に於ても亦同様の段階を獨伊にもたしたのである。獨伊が眞に歐羅巴に於て生きるためには、たゞ單に自國を共産主義から防衛するだけでは果し得るものでないことがハッキリして來た。防共協定の新しい段階は、必然に積極的な對デモクラシー國家群との抗争につき進まなければならぬ。それでなければ眞に防共協定の意義を完ふことが出來ないのである。

こゝに、「暴支膺懲」が反共戦争であると同時に、又反英闘争でもあるといふ、運命的な必然性を見出すことが出來る。

英國が、支那事變の裏で絲をひいてゐる一人であることは今更言ふまでもない程、日本國民全部の常識である。事變以來、ユニオンジャツクの旗が、如何に皇軍作戦の妨害を爲して來たかは

日本國民の一人々々が深くその頭腦に印象づけられてゐることであらう。上海四行倉庫事件から最近の汕頭英艦立退問題に至る迄、その惡質なる對日行動はこゝに枚擧する違もない程である。だが、日本はその都度よもやに曳かされて隠忍しつゞけて來た。英國の現實外交が、極東に於ける日本の實力に氣がつかない筈はないと考へたからである。日英關係の歴史は、その多くを寧ろ英國のために利益したとは云へ、日本の武士道的道義觀は、英國にその反省の期間を與へることを拒むものではなかつた。英國に對するこのやうな期待は、英國がいつかは極東に於ける日英協調をもつて報酬するであらうといふ甘い夢を追つてゐたものであつた。悪いことにはこの親英的空氣が、日本の政治の上層部に於て一層熾烈であるといふことである。彼等が輿論を指導するために、英國と喧嘩してどうなるのだ、英國はいまにエチオピアに於ける伊太利を認めたとやうに、支那に於ける日本をも認めるであらうといふ期待が一般を支配してゐたのである。それがやがて、一千萬磅の借款になり、厦門に於ける三國共同干涉にまでも進展せむとし、遂に天津に於て爆發するに至つたのである。

我々は、初めて、ハツキリ答へることが出来る。なぜ、事變は終らないか。極東に英國があるからである、と。

(一) 英國は何をしたか

今日、三十歳以上の日本人は多かれ少かれ必ず外國崇拜の傾向を持つてゐると言つてもそれは過言でない。その外國崇拜が、英國を中心とするものであることもまた疑ひない。然しながら、三十歳以上の日本人が外國崇拜であり、親英的傾向を持つからと言つて、必ずしもそれは不自然ではない。何故ならば、それらの人達は、自分達の壯年期や少年期の教育を英國中心に學んで來たからである。英國は、政治、經濟、文化の凡ゆる部門に於て日本の先進國であり、師であり、手本であるといふ考へ方が不知不識の中に頭の中に沁みこんでゐる。事實、英國を眞似しようとした日本よりは、英國が進んでゐたには違ひない。この傾向は、形の上では日英同盟となり、思想の上ではデモクラシーの移植となつて現れたのである。英國は進んだ國であるといふ理想國家的な憧憬と、従つて英國人はゼントルマンであるといふ理想人間的な尊敬は、日本の或る年代の

人々を魔藥のやうに捉へたのであつた。今日の日本知識階級の性格を決定づけてゐる重大な要素は、修身、地理、歴史等に於ける英國及び英國人の優位性の強調と、中學時代の大半の時間を奪ふ英語の勉強とにある。太陽の没せざる大英帝國のいづれの植民地に於ても、恐らく日本人ほど猫も杓子も英語を知つてゐる民族はあり得ないであらう。だからと言つて、先進國に學ぶことが不當であつたといふのではない、それはたゞ飽くまでも手段であるべきものを、官僚的日英文化協定は日本人の物の考へ方と見方とを全く英國的なそれに改造し終せたのである。この恐るべき教育上の錯覺が、或る一部の日本人をして、日本の國家よりも英國が有難いものであるかの如く思ひ込ましたものの如くである。

日本が英國と結ぶことによつて、北方露領に氣を奪はれてゐる中に、英國は徐々に、然し確實に極東の地位を向上せしめて行つたのである。日本は、英國に學ぶに急であつて、英國を批判する追を持たなかつた。英國が極東に於て何をして來たか。我々はいまその罪惡史の根源を徹底的に剔抉する必要に迫られてゐる。

英國カンタベリーの某大僧正といふ坊主が、信徒を糾合して、日本の廣東爆撃を非人道的であると嗤ひ、この運動を政治的に利用したことは世人のよく知る通りである。この坊主の言草によると、日本は無辜の支那良民をその無差別爆撃によつて大量死殺したといふのである。多分、朝のコーヒーでも飲みながら香港からの出鱈目ルーター電報でも讀んだのかも知れない。だが、英國が其時自國の植民地で何をしてゐたであらうか。パレスチナで、そして印度の山の中で――。彼等英國人は、ピストルも、抗英意識も持たない全くの土人を機關銃で掃射し、飛行機で爆撃してゐたではないか。そのあまりの慘酷さに、アメリカ人は英國に飛行機を送ることを拒絶した位であつた。

假面をかぶつた英國の紳士たちは、世界の目の届かないところでは、非人道の限りを盡し、天人階に許さざる惡逆を敢てしてゐるのである。英國が東洋を掠奪する最初の根據地東印度商會を創設してからの、その暴逆と惡業とは、こゝに列擧すべくあまりに多すぎる。嘗つては、印度の阿片を密輸入して全支那人を癡人に化せしめんとした英國が、支那の獨立と保全とに關して容喙する如何なる權利を有するといふのであらう。支那への投資額十億を超える搾取を守るために

み、英國の平和と正義の言葉が存在するのである。金力に依る強奪と武力による殺戮を併用して未開後進の東洋諸國に英國の支配網を張りめぐらした彼等は、常に偽装せる優和をもつてその擁護に腐心して來たのである。

滿洲事變を契機として、英國の極東政策は排日親支の旗幟を明かにして來た。勿論それまでも、英國の植民地並びにその市場に於ては、日本商品に依る英國品の驅逐が壓倒的であつたために、英國は各市場に關稅障壁を設けて、發展日本の防衛に大童になつてゐたのである。支那に於ける排英運動は、一地方から全支に波及して、その鬭争は徐々に民族抗爭の様相をさへ呈するに至つた。滿洲事變はかゝる時に勃發して、排英を排日に轉換せしめる重大なモメントとなつた。支那と日本を嚙み合わせるによつて、極東に於ける英國支配を強化せんとする陰謀は、リットン報告書となり、リースロスの支那幣制改革となつたのである。斯くして英國はふたゝび支那を自家藥籠中のものにすることに成功したのであつた。

我々は、事變以來屢々ヒューゲツセンとドナルドとカーの名前を聞いて來た。彼等は常に蔣介石夫妻の側近にあつて、その抗日戰爭を内面的に指導して來たのである。いかに物好きでも、我

らは到底、強盜を顧問にする氣にはなれない。

人はよく英國の植民政策の巧妙さを讃へる。英國の植民政策は成程英國にとつては、巧妙なる政策であつたかも知れない。だがそれは、英國や英國人を尊敬する何等の理由にもなり得ないものである。英國の政策が巧妙であればあるほど、英國は人類の敵としての排撃を受けねばならぬ種類の運命を擔つてゐると言ふべきであらう。その巧妙さは、所謂狡猾から一步も出てはゐないのである。彼等は、その植民地を永遠に奴隸の立場に追ひ込んで、凡ゆる桎梏と鐵鎖をもつて未開人を未開のままに放置しようとしてゐるのだ。ヴェニス商人は斯くの如くにして、全世界に海賊的掠奪を恣まゝにし、本國の百五十倍に近い領土、世界の四分の一の陸地を獨占して世界に君臨してゐる。

支那人は先づ日本を敵とする前に、十八世紀の初頭イギリス人が支那の土地で生活するやうになつてから、何をしたかを回顧して見る必要があらう。阿片戰爭による一八四二年の南京條約、一八五六年のアロー號事件による北京條約を想起するがいゝ。それは單に支那が領土的に侵略さ

れたばかりではなくして、實に支那民族を根こそぎ全滅しようとした英國の非人道的阿片政策にあつたのである。酒を飲まして鱈を骨抜きにするといふ料理法は日本にもある。だが、阿片をもつて一國民を精神的肉體的に不具にして、その領土資源を横領しようといふに至つては、神を持つ國家の果して考へ得るところであらうか。

自國産業を擁護するために、土人職工全部の指を斬り落し、シンガポールを奪取するために幼い國王に玩具を與へてこれを瞞着した大英帝國の世界侵略史は、人類の永遠に忘れることの出来ない記録である。東亞の後進國にして、英國の魔手を脱し得る境遇にあるものは我が日本を措いてはない。印度、支那、西藏、タイ（シヤム）海峡植民地、濠洲その他の諸植民地を見よ。そこでは、英帝國主義の重壓下に幾億の人間が、どん底の生活に呻吟してゐるのである。

（三）租界と援蔣政策

事變以來日本の軍事行動の壓倒的勝利は、抗日政權を四川の山深く追ひやつた。然るに、上海天津の外國租界には依然として抗日テロが出没し、日本の軍事行動を妨害するばかりではなく、

全占據地域に於ける政治的經濟的建設を破壊しようとする。租界はもとより我國の領土ではなく、支那の宗主權が嚴然として存在する。それが今も尙四川の山奥に逃げ込んだ鬼熊政權の根據地になつてゐるとすれば、租界は正しく日本の軍事的目標でなければならぬ。それは敵の迫撃砲陣地や機關銃座と何んの異なるどころもない筈である。

この租界問題を解決することなしには、日本の占據地域がいかに擴がらうとも、その最後の目的を達することは至難だ。否、寧ろ、凡ゆる根據地の爆撃にもまして、租界問題の徹底的掃蕩こそ事變を解決する先決問題でなければならぬ。

然るに租界に於て支配的な勢力を持つてゐる者は英國である。上海の共同租界に於ける英國の支配、天津に於ける英國租界の敵性こそ此の租界問題解決の痛になつてゐるのである。英國は武力こそ藉さないが、蔣政權に對して凡ゆる財的、物的援助を惜しまない。戰勝國の通貨が、戰敗國の通貨より下廻るといふことは、英國が支那に對して法幣安定資金を與へること、租界内法幣の維持に全的支持を與へてゐるがために外ならない。そこで抗日出版物があり、抗日新聞があり、抗日テロが頻發し、その犯人は英當局の庇護の下に白晝公然と漫歩することが出来るのであ

る。今日に於ては、日支抗争の相手は重慶の政權ではなくして、實にその背後に策動する英國であり、英國の極東根據地たる香港、上海、天津、そしてシンガポールでなければならぬ。

天津租界の日英抗争は、正に事變のこの段階に於て勃發したのであつて、それは來るべきものが來たと言ふ必然性を持つてゐる。日支の抗争の解決はこゝまで來なければ、最後の段階には入らないからである。それ故、日本が此の抗争に勝利するか否かは、日本が支那事變をいかに解決するかといふ問題と同じであると言ふことが出来るであらう。

天津租界紛争は、言ふまでもなく英租界當局が抗日テロ犯人を日本に引渡すことを拒絶したことに端を發してゐる。その経緯については田中天津領事が語るやうに、最初それらの犯人を日本側に引渡すことを承諾しながらその間何等かの政治的事情によつて之を遷延し、遂にはその承諾を取消すに至つたといふのである。このことは、英國自身が犯人を日本側に引渡すことを承認してゐる如く、日本占據地域内にある租界當局の措置としては極めて當然でなければならぬ。若しも、租界がこの簡単な常識を無視するものとすれば、日英間には何等友好的關係を有しないこと

を英國自身が認めたことであつて、日本はこの敵性を排除すべく斷乎たる自主的行動に出るのが當然である。

然し乍ら、犯人引渡し問題は今や日英抗争の中心點ではあり得ない。我々が、東亞に新しい秩序を創り、新しい文化を樹てるために全面的に亞細亞に於ける英國支配から解放されることこそ最大の目標でなければならぬのである。

英國が東亞に於ける日本の立場を認めるといふことは、第一にその援蔣政策たるカーシシステムを清算することであり、第二には新支那建設のために日本と協力することを先決の問題としなければならぬ。日本は屢々聲明してゐるやうに第三國の權益を尊重するものではあるが、抗日政權を援助する第三國權益の番人までを勤める譯にはいかない。この敵性を爰除せざる限り、事變の解決はどこまでも堂々めぐりに終始し、一方ではその撃滅のために全精力を集中しながら、他方でその活計を圖つてやる如き矛盾をおかしてゐることになる。

我々が若し、今次天津租界問題に端を發した反英國國民運動の目標を、單に天津租界問題の解決にのみ向けるならば、我らは英國の狡猾な外交トリツタにひつかゝる虞れがある。英國は、天津

租界問題の紛糾に便乗して、他の占據地區に於ける英國權益擁護の保障を日本に求めて來るに違ひない。東京會談がどこまで纏れて行くにしても、英國自身は會談を局地的な現象と見做して、最後に讓歩する意志をもつてゐる。問題は、如何にして求めるかにある。英國が他の權益の補強工作の餌として、天津問題を見てゐることは明かだ。ウツカリ英國の「好意」を眞に受けると、その瞬間我々は身動きもならない自分自身を發見することになるであらう。斯くて、東京會談は天津租界問題を含むで、それを更に擴大した東亞に於ける日英關係の清算の端緒となるものでなければならぬ。その會談に於て、英國が何をともめて來るか、國民の嚴に監視しなければならぬところである。

(四) 東京會談の意義

日本國民は、東京會談に何を望むか。

それは今や天津英租界に隱匿せられたる犯人引渡し要求や、租界行政或ひは局地的經濟問題の解決に終るべきではなす。

第一に、基本的な要件としては、東亞に於ける日本の指導的立場を確認し、抗日政權援助を即時停止して日本と協力することである。このことが貫徹されない限り、日英間凡百の紛争が解決されたとして何等の意義をも有するものではない。右に關し七月七日の平沼首相の時局談は、いささか抽象的過ぎる憾みはなかつたか。即ち――

天津問題は、大體局地問題の解決にある。併しこれには英國の氣分が關係して來る。東亞新秩序建設に異議をさしはさんで、妨害するに於ては如何なる國といへども許せない。その點がきまらないと何度でもかういふ事件が繰返されよう、つまり東洋に於ける日本の地位と使命を眞に諒解するのでなければならぬ。具體的な問題は天津租界の問題にしても、その基礎になるものに重點を置かねば眞の解決は得られない。日本としては妨害はどこまでも排除して行かねばならない。即ち、日本の眞意をはつきり認めるのでなければ話合ひは出來ない。さうなれば打切るよりほかはない。一體日本が道義を基礎にしてゐることは、歐洲大戰當時日本が參戰したのも全く日英同盟の道義を重んじた爲だ。その後いろ／＼と英國が日本の國民を裏切る様な事例が多々あつた様だ。この英國の態度が是正されねばならない。日本としては支那に於ける英

國の既得權益を奪ふ様なことは考へてゐない。租界中立云々といふが本當に中立なら結構だ。併し中立の名にかくれて治安を紊亂したりするは怪しからぬ、本當に中立ならさういふことは止めねばならぬ。(七月七日 東京朝日新聞)

東京會談に對する陸軍當局の意向は、七月四日情報部長談の形式をもつて、次の如く發表された。

今回、英國の申出でにより東京に於て日英會談を開くこととなつたが、右は天津に於ける局地問題を主とするものであつて、従つて現地に於ける治安維持並びに軍の生存上必須の事項に就き現地英國側の態度變換を求めんとするものである。然れども敍上の如き現地英國側の態度變換は畢竟英國の今次事變に對する根本的認識並びに現事態に即應する如く態度の是正を見ざる限りその實現は不可能であつて、茲に本會談の重大性が強調せらるゝ所以である。

曩に現地陸軍當局が自衛上緊急の必要に基き英租界に對し斷乎たる措置を採るに至つたことは周知のことであるが、帝國陸軍當局としては、出先軍當局今次の適切妥當なる措置に對し、

積極且つ全面的に之を支持しある次第である。

然るに英國側に於ては帝國の措置に對し或ひは英國の正當なる在支權益をも全面的に排除する如く誣ひ、或ひは更に進んでは之を他の第三國權益にまでも及ぼさんと企圖しあるかの如く宣傳しあるも、今回軍が直接に目標とするところのものは、公然援蔣的態度を繼續し、多分に敵性を發揮しある現地國側を對象とするものにして、現に我軍に協力し或ひは我に好意を表しある他の如何なる第三國に對しても絶対に他意なきは勿論である。

要するに今次會談の目的は天津英租界に於ける英國の敵性を完全に芟除せんとするものにして、此の事は英國自らが進んで既往の援蔣態度を放棄し、東亞の新秩序建設に協力するに至ることによつて實現せらるゝものと確信しある次第である。

従つて、英國にして以上の態度變換を示さざる限り今次會談は何等の意義をも認め得ざるものであつて、その成否如何によつては現地軍としては獨自の所信に従ひ、更にその施策を繼續強化するの止むなきに至ることあるべきを豫想せらるゝ次第である。(七月四日東京朝日新聞)

以上の如く、その表現に多少の強弱はあるも、東京會談の持つ第一の意義は英國の全面的態度是正にあることは明かである。

だが、所信は必ず貫徹されるものと決まつてはゐない。所信は結局希望であるからである。しかし、我々國民が今次事變をして眞に意義ある東亞新秩序建設をもつて同胞幾萬の死に答へんとするならば、此の所信から一步も退いてはならないであらう。そのためには我々は國內に於て、常に「英國の友」を以て任じ實は「英國の使用人」の役割を果してゐる拜英主義者共の妥協策動を監視する必要がある。

今や、全國に澎湃として擡頭しつゝある反英國國民感情の中にあつて、この赤心を賣らんとする親英派を打倒し、日本それ自體の精神的英國支配から解放される時が來た。日本が眞に皇國の精神に還つて新日本を建設するためには、我々が長い間訓練されて來た英國的觀念、英國的感情の支配から脱却することが緊急事である。英國的なる一切を破壊し、英國的なる一切の羈絆を脱せよ。實に、日本人の内からなるこの精神的革新こそ、今次天津租界問題を契機とせる反英國國民闘争の第二の意義でなければならぬ。

明治維新以來の日本は、その民族の優秀性を以て、恐るべき英國の魔手をきりぬけて來た。年代的には印度、支那よりも遅れて近代文明と接觸した日本が、逸早くそれを咀嚼して世界的水準に到達することが出來た。日本に租界や租借地や、英帝國資本の桎梏が無かつたといふことは、實に日本民族の優秀性があるとは云へ、それは全く奇蹟にも等しいものであることを思ふべきである。それが何んであるかは、日本國民の全部がいま胸に手をあて、考ふべきところだ。我々がこの皇恩の萬分の一に報ぜんとするならば、今や精神上の英國支配をかなぐりすて、眞に日本的な日本人に還つて、皇國御稜威の發揚に奮起しなければならぬのである。

斯くの如くにして、日本が眞に英國的支配の一切から解放されて立上る時、日本が東亞に於て自覺すべき使命は、英帝國主義下に呻吟する東亞諸植民地弱小民族を英國の支配から解放することに向けられねばならない。英國の「海賊紳士」どもは、過去二世期に亘つて東亞を略奪し、弱小民族を惨殺し、その精神と肉體とを蹂躪し去り、猶且つその支配を永續せしめんとしてゐる。人道の名に於て、人類の尊貴のために、日本が東亞弱小民族の英國支配からの獨立に立上らねば

ならぬ理由はこゝにある。曾つて日本は、ヴイルサイユ會議に於て人類平等を掲げて東亞弱小種の爲に立上つた榮譽を擔つてゐる。之に對し眞向から反對した者は誰だ！ 假面をかぶつた紳士英國ではなかつたか。

今日、東亞に於てその實力をもつて、英國を驅逐し得るものは日本あるのみである。日本の反英國民闘争に課せられた第三の意義は、日本が東亞諸民族を率ゐて太平洋西海岸並びに印度洋から英國の勢力を閉ぢ出し、その人種的優越感を叩きつけることに向けられねばならない。

(五) 拜英主義者は誰だ

前章にも述べた様に、三十歳以上の日本人には多かれ少かれ拜英的感情がこびりついてゐる。英國の立憲政治が日本の立憲政治の理想であり、英國の前掛け外交が日本道義外交の理想であり英國の資本主義が日本經濟の理想であり、英國製サルマタが日本のサルマタの理想であると考へ込んでゐる日本人がいかにか多いか。この英國的感情から日本人を解放することは、現下政治を擔當するものゝ重大なる任務であるに拘らず、政治外交にたづさはる上層構造に寧ろ拜英派が多い

ことは、實に日本の一大不幸と言はねばならない。特に、我々はその顯著なるものを霞ヶ關に見るのである。霞ヶ關は日本の對外折衝の一手專賣所である。こゝに拜英主義者が巢喰つて、英國の番頭をつとめてゐる間は、英國の尊大な對日感情は絶対に拂拭されるものではない。

霞ヶ關退役のボスは、吉田茂、出淵勝次、佐藤尙武であるといふのは、天下衆知のことであるが、佐藤尙武は政策に於て出淵は人事に於て、未だに霞ヶ關に牢固たる勢力を植ゑつけてゐる。

佐藤尙武は、元外務大臣を勤め、大使佐藤愛麿の養嗣子として、退役ながら群小外交官にニラミがきゝ、宛然佐藤閣を霞ヶ關につくつてゐる。彼が、外務大臣在職中支那は日本が戦争しなければ絶対に起ち上らないと言明して、支那の抗日意識を一層増長させたことはこゝに説くまでもない。蘆溝橋以來の不法なる抗日政權の挑戦によつて支那事變が勃發し、遂に同胞幾萬が大陸の土になつたことについて佐藤はいかなる感慨をもつであらうか。我々は、彼こそ白晝公然と出歩くことの出来ない人物であるが如く思はれるが、最近は頻々と講演などに顔を出して相變らずの聯盟主義をふり廻して歩いてゐるといふ噂だ。彼が某大學の講演に於て、聯盟を脱退した爲に世

界の名士と膝を交へて語ることが出来ないのは日本外交の大きな損であつたと言つて、若い學生たちの失笑を買つたと言はれてゐる。時局認識もこれほど不足してゐるとお話にならない。佐藤の使ひ走りは、出淵が勤めてゐるといふ。

出淵勝次は、駐米大使を最後に誡になつたが、いまだに外務大臣の夢を追つて駆け廻つてゐるのであらう。滿洲事變當時、日本が國際聯盟で十三對一の絶體絶命の立場に追込まれてゐるのに彼がその老妻とフロリダでダンスしてゐる寫眞が新聞に出て問題になつたことがある。次官時代に出淵に政治などは分るものかと森恪の一言で引込まされた位だから、勿論大臣などはトテモ覺束ない。本人は案外呑氣に親英プロックなどを作るのに奔走してゐるが、骨折り損の草疲れまうけが落ちであらう。

吉田茂は人も知る牧野伸顯の女婿であるが、廣田を總理大臣にしたのは自分だとふれ廻つて歩くといふピント外れだから、英國大使が拾ひものであつた。典型的な親英主義者で、寧ろイギリスの方の外務大臣だつたらどうかと悪口を言はれてゐる。廣田も大臣にどうかと考へたが、周囲の猛烈な反對で沙汰止みとなつたのである。

これにつゞく現役大物中のイギリスの外交官は駐米大使堀内謙介、駐英大使重光葵であらう。堀内謙介は、松平佐藤の直系で全くの三太夫的存在である。次官時代はその無能ぶりが買はれて、長い任期をつとめ上げた。その賞與としての駐米大使だから、毒にも薬にもならない出淵第二世の觀がある。重光葵は、張鼓峰で男を上げたが、一説には駐露大使當時のスタッフが良かったからで、重光の手柄ではないとも言はれる。事務家肌の役人だから次官も無事に勤め上げて、待つものは外務大臣の椅子ばかりといふ好運兒。生來の俳優的性格に、英國型外交の訓練を経て相手の顔色を読むのには天才的などころがあると言はれる。此の度の天津租界問題では、訓令も受けない中にハリファックス外相と會談して、張鼓峰事件のテをやらうとしたのだが、生憎柳の下に鱈は居ず、英國人裸體事件などが持ち上つて一言の下にハリファックスに謝罪してしまふといふ醜態を演じた。これには流石の有田も御機嫌をスツカリ斜めにして憤慨したといふが、重光も九叙の功を一箕に缺いたやうなもの、この状態では一寸大臣の雲行も怪しくなつた様だ。霞ヶ關通型の外交技術屋であるから、在外使臣が適役でもあり、將來日英間の紛争が激烈になれば、その動き方の如何では又見直される時が来るかも知れない。

以上につゞく親英派には、天羽スキス公使、谷正之公使、安東秘書官などがある。東郷駐露大使、來栖駐白大使は共に佐藤尙武の直系であるが、在外使臣として出てゐるから時局に對しての影響力は薄い。堀内の直系には吉澤アメリカ局長、若杉ニューヨーク總領事、原田情報部次長などがある。堀内謙介は長い間次官をやつただけにその乾分も相當多いが、いづれも親英的傾向が強く、キザつぽい外交官ばかりである。若杉などはアメリカの大學を出たヤンキー・ボーイで、日本の國內事情などは一向に御存知ない。日本親英派の紐育支店長だと一般に言はれてゐるが、大使堀内と連絡して日英米協調などをモクロンでゐると言はれるから、反英鬭争を戦つてゐる國民の監視が必要だ。吉澤アメリカ局長は堀内の一の乾分で、徹底した自由主義者。米國參事官から情報部長になるつもりで横濱に上陸したところ、自由主義の本山のやうな霞ヶ關も餘りの自由主義者であるからと言ふので首を捻つた。お蔭で、もう一つ上の局長を捻つたといふ珍奇な經歷は誰でも知つてゐる。藝妓とゴルフの他には話題を持たないといふが、奥さんが有名な武藤山治の娘で、あれならば持參金拾萬圓から、殊によると五拾萬圓位はあつたらうと噂の種を蒔いた。田舎の公使位でとゞまる人物だからとり上げる程のこともないが、現在霞ヶ關の首脳部にある關

係上拜英主義者の意向を受けてどんな考へを述べないとも限らない。首脳部と言へば、最近河相情報部長の轉出にもなつて情報部長の後任に、次長原田健の昇格説が新聞などに出てゐる。佐藤、堀内あたりの親英派グループの策動であるらしいが、若しさういふ結果になるものとするれば霞ヶ關を監視する場合原田健も等閑に附する譯にはいかない。彼は、堀内の義兄弟にあたる男で國際聯盟の中に二十年も暮して、日本に歸つてから四ヶ月にしかならない。疊に坐れないので、文化アパートに生活してゐるといふゴシップがどこかの新聞に出た程の日本離れした人物である。河相が歐洲事情に疎いといふので、その補佐役として初代の次長になつて來たのであるから、その男がすぐ部長になる譯はない。聯盟ではリワル・ハラダ、ジャツプ・ハラダなどの異名で、歐洲聯盟主義者のマスコットとして飛び歩き、チエコ前大統領で、聯盟主義、自由主義の典型ベネシユに可愛がられ、その私設秘書だといふ評判が立つた程である。歸朝早々、ある集會の席上河相とは反對に國內事情に疎い彼は、全體主義よりも社會主義がいゝと言つたとかで、並居る人々はビツクリしたといふ。尤も彼は、エビスコパル派のクリスチャンソシヤリズムを信奉してゐるから、そんなこともあるのかも知れない。

國民がその死生を賭して反英鬪争を闘はんとしてゐる時、我々はその當事局たる外務省から親英妥協の雰圍氣が生れて來ることは我慢が出來ない。然し、霞ヶ關とても必ずしも拜英軟弱であるとは限らない。河相が轉出するとしても省内に栗原、西、省外に日高があり、現地側には加藤田代が東京、天津と呼應して、眞に國民外交としての日英鬪争を開始せんとしてゐる。眞に國民の信頼すべき者ならば、國民は彼等と一體となつて水火をも辭すべきではあるまいと考へる。

霞ヶ關が、拜英主義官僚の巢窟であるやうに、財閥にも、新聞雜誌界にも、教育界にも英國のものならサルマタから靴下のはてまでも有難がる者が少くない。反英鬪争は必然に英國の經濟封鎖まで發展するかも知れない。すると年額五億圓からの損失になるといふので、凡ゆる手段を講じて反英國民鬪争の食止め必死になつてゐるものもあると言はれる。我々は、個人としては如何なる人間も憎むものではないし、事實個人としては如何なる惡徳も程度が知れてゐる。監獄に這入つてゐない人間ならば必ずどこかにいゝところがあり、尊敬すべき點もないではなからう。それは英國人と雖も個人としては尊敬すべき人物が少くないに違ひない。だが、それがユニオン。

ジャツクの旗の下に動く時に、我々があくまでも彼等と闘はねばならぬ運命と使命とが生れて來るのである。同じことが拜英主義者、親英派についても言ふことが出来る。英國と闘はねばならぬ運命と使命とを有するが故に、我々は拜英主義者、親英派と闘はねばならぬ立場を自覺しなければならぬ。それは、我々自身英國的教育の下に培はれた内なる英國的精神の支配を清算して、祖國日本を昂揚せしめ、前進せしめる具體的な第一歩となるものである。

(六) ふたゝび——なぜ事變は終らないか

廣漠たる大陸の、灼熱百五十度の炎天下に同胞將兵が死闘をつゞけてゐる。支那の主要なる領土は日章旗の制壓下であり、抗日政權は奥地に餘喘を保つて氣息奄々たるものがある。

然るに、なぜ事變は終らないのか？

二年前に、我が同胞が血を流して戦ひとつたところに、今なほ抗日の根據地があり、憎むべき青天白日旗が翻つてゐる！ これは、何を意味するか？

諸君は、既にその理由をハツキリ掴まれたことであらう。即ち、青天白日旗の裏にユニオン。

なぜ事變は終らないか

三二

ジャックがあるからだ。更に言へば、青天白日旗が實は、ユニオン・ジャックであつたのだ。第三國を自稱しながら、援蔣に狂奔する英國を討たずして、絶対に東亞の平和を期待することは出来ない。支那の裏面に英國の金力が控へてゐるが爲に、支那はその抗日の迷夢を棄てることが出来なかつたのである。このことから、我々は何を考へるべきであらうか。即ち——英國が、大陸に於て我が同胞の生命を奪つてゐる——といふ、これだ！

東京會談をして、英國の全面的態度是正を唯一の目標とせよ！

東京會談をして、東亞全弱小民族解放の光榮ある烽火たらしめよ！

東京會談をして、國內の拜英主義を一掃する契機を作れ！

事變は斯くて終り、日本と東亞とは初めて新しき第一步を踏み出すであらう。これが、同胞幾萬の死に應へる、我々國民の義務である。

——終り——

昭和十四年七月十五日印刷
昭和十四年七月二十日發行

なぜ事變は終はらぬか？

【定價 金 拾 錢】

送料 二 錢

著 者

高 山 雅 郎
東京市神田區鍛冶町一ノ一

發 行 者

橋 本 廣 介
東京市神田區鎌倉町十一ノ六

印 刷 所

第二川瀬印刷所

發 行 所

三 共 書 院

東京市神田區鍛冶町一ノ一
電話東京二九二三六番

390

337

月刊雑誌

時話の題

時局の前線を行く大衆綜合誌!!!

事變下の青年知識層に與ふ

本誌には特にやかましい主義主張といつたものはない。だからと
 いて、別に何かの機關誌といつたやうなものでもない。その意味
 では全く自由な建前に立つてゐる。刊行の辭とか、スローガンめい
 た言葉を取て喋々とない所以である。だが、しかし、本誌を世に送
 り出したのには、はつきりした社會的必要に基いたことを言ひたい
 時局多端の折柄、現在の日本のチャリナリズムは、餘りに高い定
 價と難澁な語句の羅列を以て、自らを大衆の身邊と知識圈から隔離
 せしめてゐる。これでは、時局認識の一般的普及といふ事に、餘り
 にも無慈悲に背を向けてゐるわけである。そこで、單的に、手取り
 早く「時局認識」のエッセイだけ拾ひ、街頭でも車中でも、短い時
 間、その目的を果せるやうに、安い値段で提供するのが本誌の目的
 である。

時局と文化の豆船艦！現下必讀誌